

ゴールドコーストマラソン遠征記

梅雨空の中、福岡国際空港へ。乗り付けた車は、福岡国際空港前の駐車場に駐車。ここは、障害者割引があり、通常の半額で利用できる。



国際線は、出発時刻の2時間前にチェックインカウンターが開き、搭乗手続きが始まる。福岡国際空港では、チェックイン前に手荷物のセキュリティーチェックを受けることになるが、チケットの予約の際に、車いす使用者であることを知らせておくと、係員がお手伝いしてくれるので、あまり心配は要らない。不安に思っていることや、対応に希望があれば、チェックインの時に、きちんと話しておくと、後々快適

な空の旅ができる。

チェックイン後は、指定された時刻に自分たちで（自分の車いすを使用）搭乗口まで赴き、航空機に乗り込む時に車いすを預けた。今回は、大韓航空を利用したので、ソウル（インチョン国際空港）経由であったが、トランジットで航空機を降りる時にも、自分の車いすを受け取り、乗継ぎ便まで不自由なくインチョン空港での時間を過ごした。



ブリスベン国際空港には、早朝到着。混雑していたが、空港係員の案内で入国はスムーズに済み、預けた手荷物も比較的早く受け取り、レーサーはターンテーブルとは別の混み合わない場所に置かれ問題はなかった。



空港からゴールドコーストまでは、車で約1時間の距離だが、大会を後援しているスポーツィング・ウィリーという団体が迎えの車を手配してくれて、ホテルまで送ってもらえたので大変助かった。

ゴールドコーストマラソンには、フルとハーフがあるが、出場者はあまり多くはない。この時期、競技レベルの高い選手たちは、米国遠征に出掛けていることが多いそうだ。

車いす出場者は、大会前日にゴールドコーストのホテルで開かれる説明会（車いす参加

ゴールドコーストマラソンには、フルとハーフがある

者のみ)で、出場者キット(ナンバーカード、タイミングチップ、参加賞など)を受け取ることができる。

大会当日、スタートは早朝(ハーフ 6:25、フル 6:45)、気温約15度。スタート地点は、ゴールドコーストの私たちのホテルから約3kmの所にある公園の一角。5:30 ホテルからレーサーに乗って、ウォームアップをかねてスタート地点へ。交通規制がすでに始まっているので、歩いているランナーをよけながら、比較的スムーズにスタート地点へたどり着ける。



ハーフのコースは走りやすく、涼しいうちにゴールできる。フルの場合は、前半はコーナーが多く路面の粗い通りもある。後半は、走りやすいが、ハーフのランナーを追い越しながら走るところがあるので注意が必要。しかし、大勢のランナーからの応援を背に、気持ちよく走ることができる。



授賞式は、公園内に設営されたステージで、ライブ

ミュージックの流れるなか行われる。

ゴールドコーストマラソンは、競技としてマラソンに取り組む人にとっても、楽しみで走っている人にとっても、気軽に参加できる大会です。また、大会以外にも楽しめるスポットがいろいろとあるので、家族や友達と一緒に参加してみませんか？

<余談> ゴールドコーストの7月は冬。九州で言うと桜の咲く頃の気候と同じような感じで、少々肌寒いが晴天だと、日中は夏服でOK。

街は、歩道と道路の段差も横断歩道の部分はスロープになっていたり、建物には必ずエレベーターが設置されていたり（古い建造物については？）、車いすの人にも優しい作りになっている。また、ホテルも、ユニバーサルデザインになっているし、バスルームも使用



できる。ただ、バスタブはない場合（シャワーのみ）があるので、予約の際に確認を。

近辺には、家族



で楽しめるテーマパークや、カンガルーやコアラなどオーストラリアの動物と触れあえる公園がいくつもあり、障害者用のトイレも必ず設置されているので安心だ。さらに、障害者割引料金があるので、窓口で確認してみよう。



移動には、通常のタクシーでも、トランクが大きいので車いすも積むことができるが、マクシータクシーというリフト付の大型タクシーだと、レーサーも容易に積めるので便利だ。

(K.Y)